

令和7年度

**学校評価**  
**アンケート・自己評価**  
(生徒・保護者) (教職員)



上勝町立上勝中学校

## 考 察

教職員による自己評価と生徒・保護者による学校関係者評価は、概ね似た傾向にある。

『よくあてはまる』と『ややあてはまる』の合計が8割を越えていない項目は、以下の項目である。

- Q 1 「生徒は目標をもって日々、学校生活を送ることができている。」教職員
- Q 2 「生徒は早寝・早起き・朝ごはんを意識した生活を送ることができている。」保護者
- Q 3 「生徒は中学生としての社会的なマナーを身につけている。」生徒
- Q 5 「生徒は自分で決めた時間は家庭学習に取り組んでいる。」生徒・保護者・教職員
- Q 7 「生徒は授業において、自分の考えを人に説明したり、文章に書いたりすることができている。」生徒・保護者・教職員
- Q 8 「学校は、GIGAスクール構想を推進し、タブレット端末の活用を積極的に行っている。」生徒
- Q 11 「学校は、それぞれが持ち味を発揮し成長する、高め合う集団づくりを行っている。」保護者
- Q 13 「学校は、生徒の主体的な意見を取り入れて、学校行事等を行っている。」保護者
- Q 14 「学校の部活動は楽しい。」保護者
- Q 15 「学校は、いつでも相談しやすい雰囲気がある。」保護者

『よくあてはまる』と『ややあてはまる』の合計が9割を越えている項目は、以下の項目である。

- Q 3 「生徒は中学生としての社会的なマナーを身につけている。」保護者
- Q 4 「生徒はあいさつをしたり、相手を思いやった温かい言葉がけをしたりしている。」生徒
- Q 6 「学校は、授業の最初に目標を示したり、教材を工夫したりして、わかりやすい授業づくりに努めている。」教職員
- Q 8 「学校は、GIGAスクール構想を推進し、タブレット端末の活用を積極的に行っている。」教職員
- Q 9 「地域のよさを生かしたり、専門家による出前授業を活用したりして、教育活動の充実に努めている。」保護者・教職員
- Q 10 「学校は、道徳教育や人権教育、生徒の個性に合わせた指導を充実させている。」教職員
- Q 11 「学校は、それぞれが持ち味を発揮し成長する、高め合う集団づくりを行っている。」教職員
- Q 13 「学校は、生徒の主体的な意見を取り入れて、学校行事等を行っている。」生徒・教職員
- Q 15 「学校は、いつでも相談しやすい雰囲気がある。」教職員

### 今年度の課題に対する成果と課題

#### 1 生活リズムの整った環境づくり

Q 1 「生徒は目標をもって日々、学校生活を送ることができている。」、Q 2 「生徒は早寝・早起き・朝ごはんを意識した生活を送ることができている。」は、昨年度から改善傾向にある。上勝町学校保健委員会を活用し、医療・行政・学校が一体となった取組を進めた成果かもしれない。

昨年度、上勝町の保健師さんが中学生の鉄分不足についてアドバイスをしてくださった。今年度も、給食試食会、食育推進パワーアップ作戦、保健師さん・理学療法士さんの講話を同日開催にしたことで、健康づくりについて中学生と保護者に呼びかけていただくことができた。今後も各機関と連携した取組を進めていくと共に、そのときどきに繰り広げられる教育活動の意義を確認し、「生徒は目標をもって日々、学校生活を送ることができている。」(Q 1) 環境を作り出すことが課題である。

Q 5「生徒は自分で決めた時間は家庭学習に取り組んでいる。」は、生徒・保護者・教職員ともに、肯定的な回答が8割に満たなかった。家庭学習の充実を進めていきたい。生活リズムを整え、睡眠、食事、家庭学習の時間を確保することが大切である。

## 2 自分の考えを相手にわかりやすく伝える学習活動の充実

Q 7「生徒は授業において、自分の考えを人に説明したり、文章に書いたりすることができている。」は、教職員は肯定的な回答が8割を越えていたが、生徒は肯定的な回答が8割に満たなかったが、昨年度の59%から75%へと増加した。今年度は発表する機会も多く、成功体験を積めたことが経験知となったのだと思われる。

今後はタブレット端末の活用(Q 8)も進めながら言語活動の充実を図り、引き続き、自分の考えを相手にわかりやすく伝える力を育みたい。学習指導は、一朝一夕で成果が上がるものではないが、生徒たちが「わかった」「できるようになった」といえる授業を実践できるように、少人数であることの利点を生かしたきめ細かい指導について、今後もさらに研究を進めていく必要があると感じた。

## 3 GIGAスクール構想の実現に向けた取組の推進

Q 8「学校は、GIGAスクール構想を推進し、タブレット端末の活用を積極的に行っている。」は、生徒の肯定的な回答が8割に達していない。授業でも、思考ツールとして用いたり、授業の振り返りをFormsや生成AIを活用してしたり、プレゼンテーション以外に活用する機会を増やしたい。学習活動においてタブレットを文房具として使うことができるよう、引き続き来年度の課題としたい。

## 4 生徒主体の活動のさらなる推進

Q 9「学校は、生徒の主体的な意見を取り入れて、学校行事等を行っている。」は、生徒の94%、教職員の33%が肯定的な回答であった。今年度も生徒の企画による修学旅行や、生徒の発案によるGXフェスティバルの取組を進めることができた。

さらに、今年度は、上勝町が内閣府から受託しているナイジェリアとの国際交流事業に参画し、その取組を、大阪・関西万博「TOKUSHIMA FUTURE EXPO 2025」や町制施行70周年記念式典等で発表する機会にも恵まれた。3年目を迎えたGXフェスティバルは、ワークショップの企画・運営のみならず、講師や企業との連絡、チラシの作成や配付計画等について、生徒に一人一役を割り振り、実施した。そのことが、地域にどのような人がいて何をしているか、町にはどのようなPRできる資源があるかを、生徒が知る機会にもなったと思う。

来年度も、特別活動や生徒会活動とも関連付けながら、生徒の活躍の場を増やし、地域とともにある学校づくりに努めていきたい。

## 5 相談しやすい雰囲気作り

Q 15「学校は、いつでも相談しやすい雰囲気がある。」を課題に感じている生徒が一定数いること、保護者にとっては相談しづらい雰囲気があることがわかる。生徒や保護者が悩みや困りごとを相談するには工夫が必要であると思われる。今後も、生徒が「安心して学校生活を送ることがでる。」と感じることができるように継続して努力していきたい。